

溝上 慎一の教育論(動画チャンネル) No236

(桐蔭横浜大学文部両道セミナー 予習動画より)

# なぜ“言葉”が“思考力”を高めるのか1

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長  
桐蔭横浜大学 教授

<http://smizok.net/>  
E-mail [mizokami@toin.ac.jp](mailto:mizokami@toin.ac.jp)

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長(2020-2021年)。京都大学博士(教育学)。

\*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。

※公益財団法人電通育英会の助成を受けて行われています。

※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。



# 桐蔭横浜大学 ノート作りの授業・セミナー

2/11 ~ ボスとリーダーの違い 前回の振り返り  
 ・ボスは時間通りに来いという。リーダーは時間前には来てく  
 ・ボスは失敗の責任を追わせる。リーダーは黙って失敗を処理する。  
 ・ボスはやり方を胸に教める。リーダーはやり方を具体的に教える。  
 ・ボスは仕事を苦役にさせる。リーダーは仕事をゲームに変える。  
 ・ボスは「やれ」という。リーダーは「やるう」という。  
 ▼ イギリスの高級百貨店デパート「セロリアンズ」の創業者 セロリアンの言葉▼

2/12 近畿大学教授の講演会から  
 失敗の捉え方  
 失敗というのは、なにをせよ。その瞬間に止まってしまうから失敗  
 なのであって、失敗を受け入れて、リアクトして、武行錯誤して、  
 成功するまで繰り返してあげば、あの時の失敗が、必要なもので  
 あったことを知るのである。つまり、理論上、失敗はなにかの目的  
 世の中に存在しないといふ事なのである。  
 ↓ 2024.03...  
 失敗を恐れないで、どんどん挑戦すること。

2/13 口羽さんから  
 チームが勝つために、今自分が何をしなければいけない  
 のか、年上であろうと関係ない。勝つためにやっているとやら  
 コーチというのはいくらも。さうすれば嫌とか、人の顔色  
 うかがう必要はない。やっても何にもならない。  
 この耳がかわられるファーストであると思っている。成長しろ!!

No. 2023.06.29  
 Date

2/14 第2回文武両道セミナーを振り返り  
 いまでも書き進みたいノートに「超えた」という大きなお題があった。  
 このノートには正解はない。自分がこういうふうにしていくわけだから  
 つくっていくノートをどれだけ自分で作っていくかが大事であり、その  
 過程が最も大切なのである。自分自身の正解を見つけ、初めの  
 100点を身指さず、徐々に100点に近づけていくことが重要なのである。

2/15 監督から (理事長の言葉)  
 このノート作りはセオリーあり (野球やサッカーの試合) のためにやるので  
 はなく、楽しむために自分の言葉と文で表現していくことが  
 自分自身のため。

2/28 方江高岸の言葉  
 「やればできる」はいいけど「やらなければならぬ」にならなければいけない。  
 受け身、受動的  
 「やらなければならぬ」は、自ら進んでやること、積極的な態度が必要。

2/27 監督から  
 ・足の運びやほど走塁に興味をもたない  
 足が速いから、スタールはいい。ほんとはいい。スタールは足の速い  
 は関係なく、どれだけいいスタールがきかせるか。ベースにいく前  
 どのくらいゴロがきかせるか。良い走塁はベースにきかせる。足が速い人  
 ほどできる。ただ、走塁は興味をもつのである。

桐蔭横浜大学強化クラブ対象 文部両道セミナー 2024年1月16日（火）・18日（木）

（予習動画）なぜ“言葉”が“思考力”を高めるのか？

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D

学校法人桐蔭学園 理事長

桐蔭横浜大学 教授

<http://smizok.net/>

E-mail [mizokami@toin.ac.jp](mailto:mizokami@toin.ac.jp)

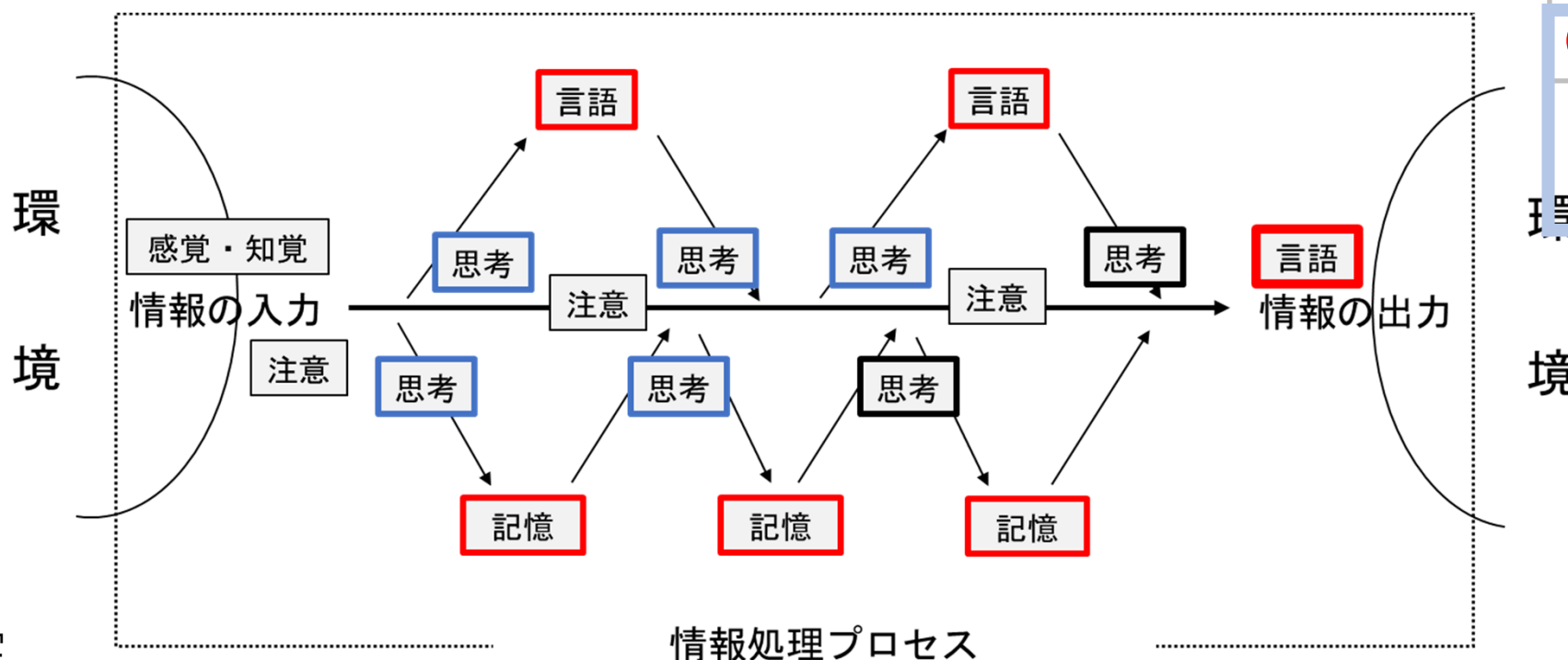


思考 (thinking) とは、情報処理プロセスにおいて働く認知機能の1つであり、ある状態を作り出す働き、ないしはそれに向かうプロセスを指すものである

### 認知機能

- ① 感覚・知覚
- ② 記憶 (知識)
- ③ 思考
- ④ 言語
- ⑤ 注意

(とくに「選択的注意」)



12月セミナー資料  
をアップデート

文献

・溝上慎一 (2023). インサイドアウト思考—創造的思考から個性的な学習・ライフの構築へ— 東信堂

それではご覧ください

桐蔭横浜大学強化クラブ対象 文部両道セミナー 2024年1月16日（火）・18日（木）

（予習動画）なぜ“言葉”が“思考力”を高めるのか？

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D

学校法人桐蔭学園 理事長

桐蔭横浜大学 教授

<http://smizok.net/>

E-mail [mizokami@toin.ac.jp](mailto:mizokami@toin.ac.jp)



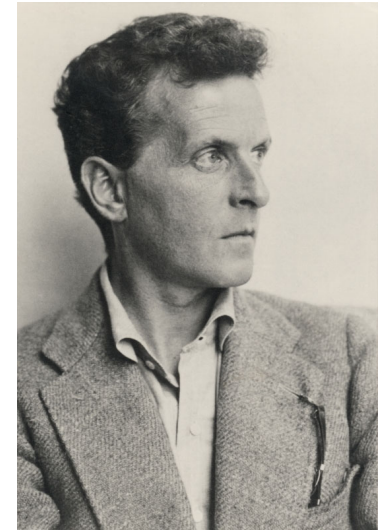
# なぜ“言葉”が“思考力”を高めるのか？

(=言語)

・ヴィットゲンシュタイン『論理哲学論考』  
言語に属する命題は思考の知覚可能な表現であり、思考は事実の論理像である。

※「言語論的転回」(R. ローティ, 1967年)

・ガードナー『認知革命』  
言語を世界に関係付ける仕方は言語の数だけあり、論理的構文論も言語システムの数だけあるのである。



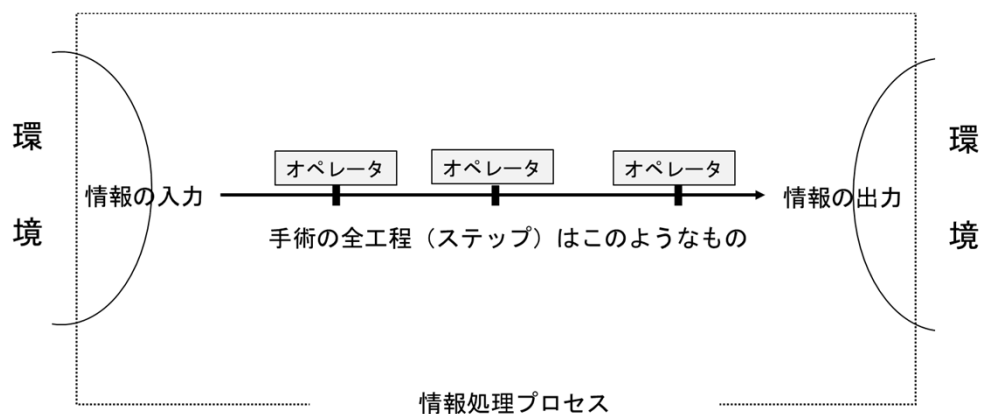
ルートヴィヒ・ヴィットゲンシュタイン  
(1889-1951)

- ・ヴィットゲンシュタイン (1975). 論理哲学論考他 (ヴィットゲンシュタイン全集1). 大修館書店
- ・ガードナー, H.(著) 佐伯胖・海保博之 (監訳) (1987). 認知革命—知の科学の誕生と展開— 産業図書

# 問題解決

problem solving

問題の状態と期待される解決の状態との間にズレがあり、その二つの状態が一致することを目指した思考



YouTube動画  
「スーパードクター 大木隆」

「この手術は全部で〇手。難しい手術というのは、ステップが多いだけ。1つ1つほぐして解決していけば、手術は成功する」

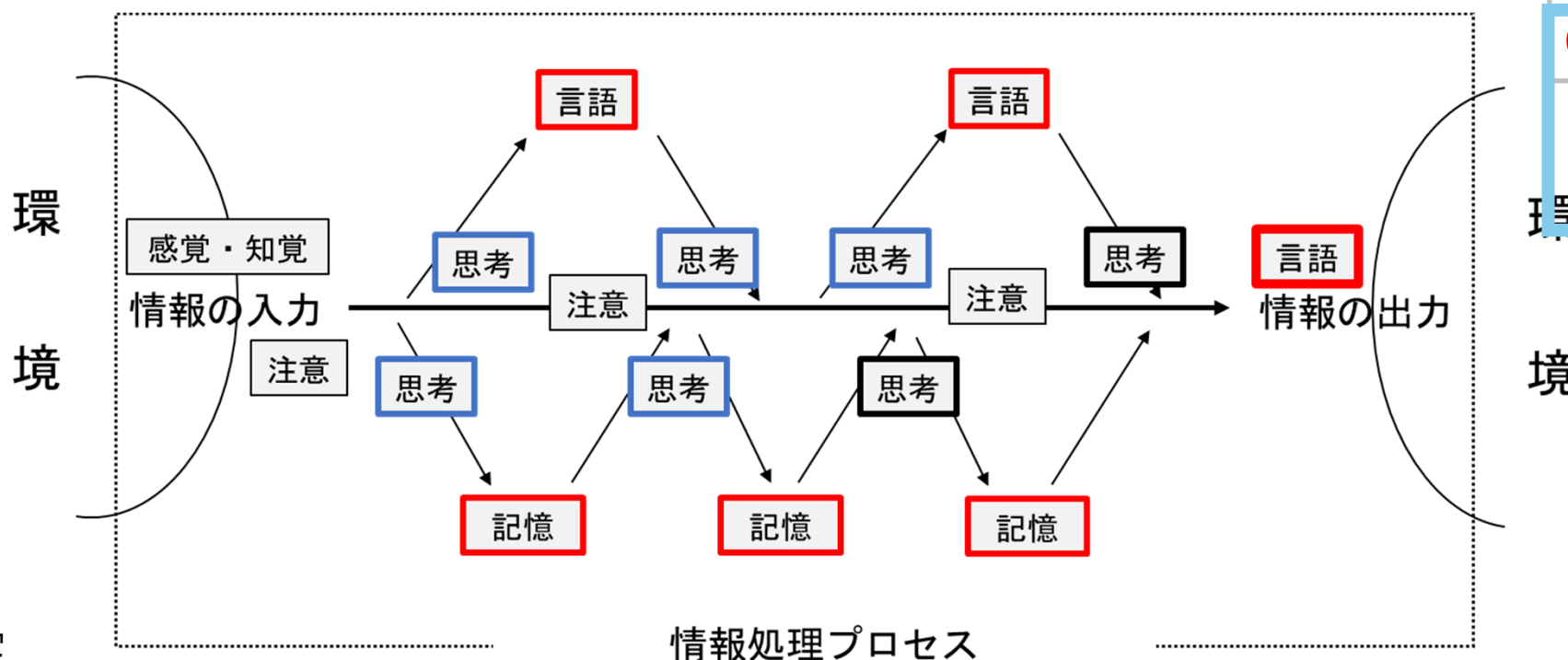


思考 (thinking) とは、情報処理プロセスにおいて働く認知機能の1つであり、ある状態を作り出す働き、ないしはそれに向かうプロセスを指すものである

### 認知機能

- ① 感覚・知覚
- ② 記憶 (知識)
- ③ 思考
- ④ 言語
- ⑤ 注意

(とくに「選択的注意」)



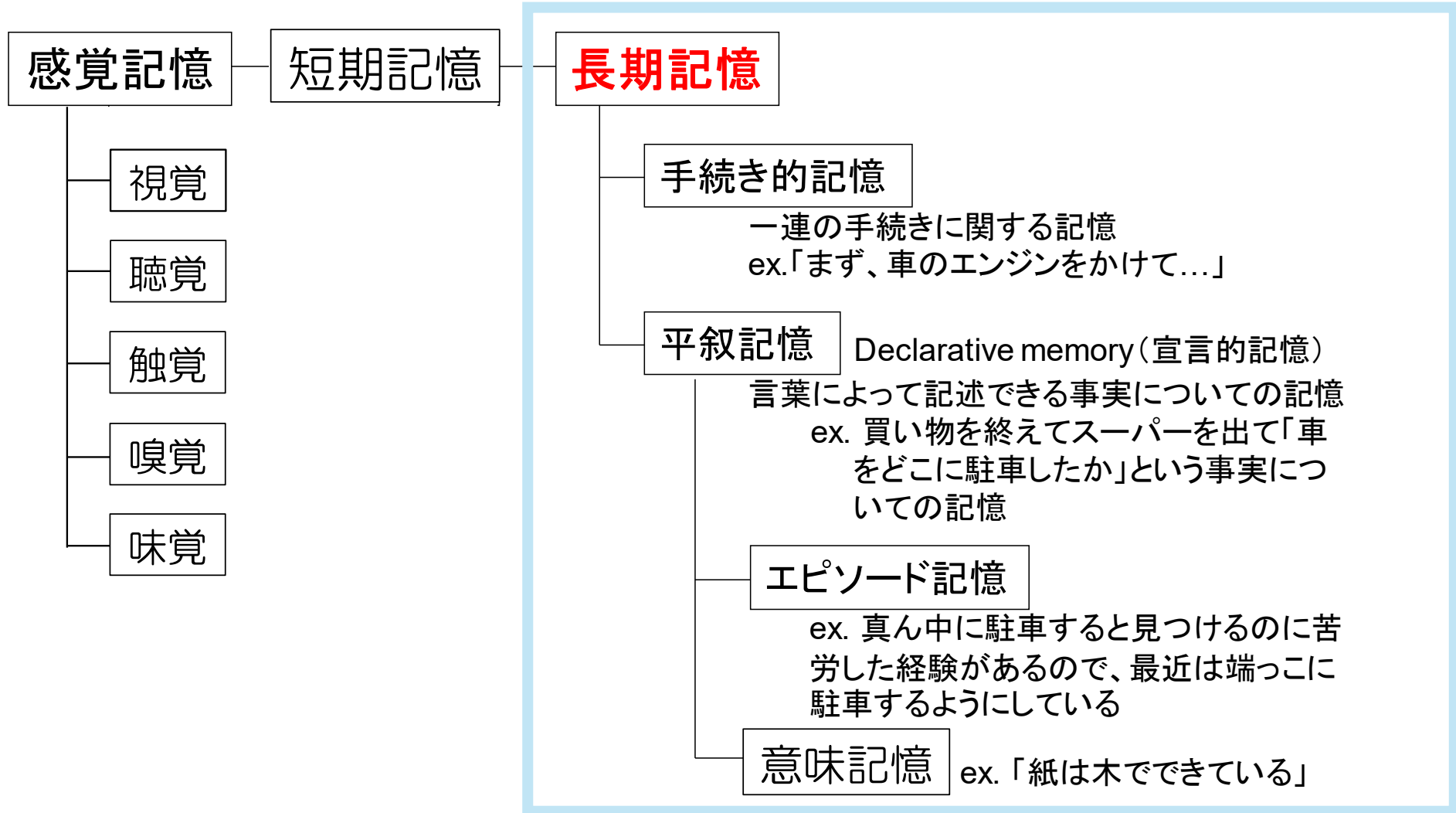
12月セミナー資料  
をアップデート

文献

・溝上慎一 (2023). インサイドアウト思考—創造的思考から個性的な学習・ライフの構築へ— 東信堂

# 記憶の構造

ここでいう「(長期)記憶」は  
≡「言葉」「知識」と置き換えられる

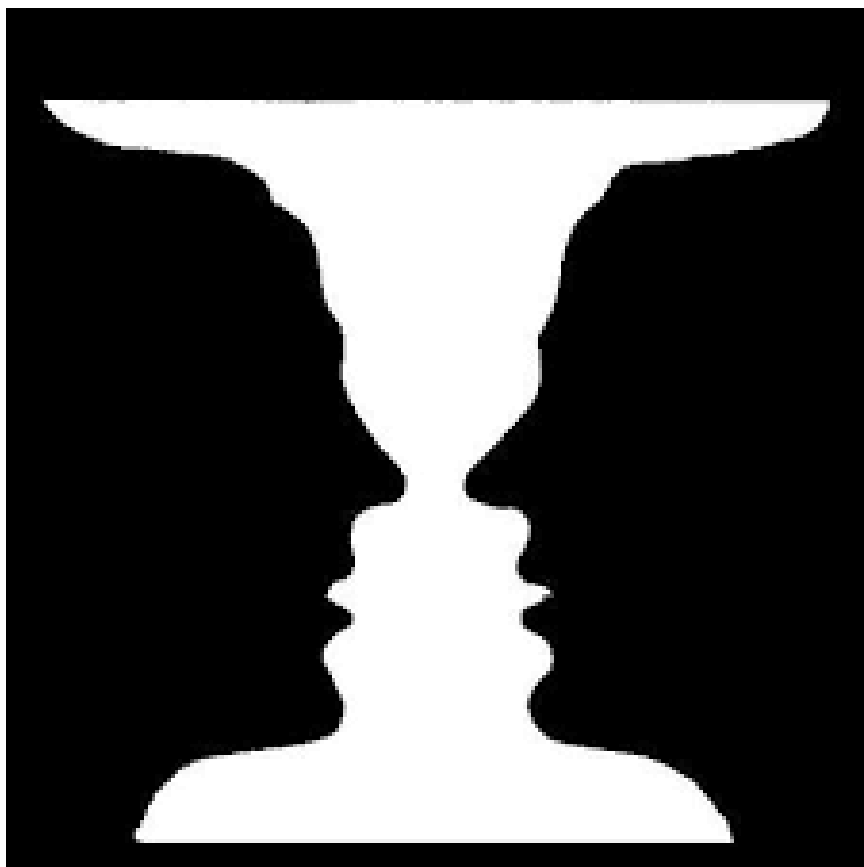


## Groupwork

覚えなるといけな漢字、用語、名前などありますよね。それをどのようにして覚えていきますか？

(レジユメの空いているところに1min+議論2min)

(おまけ) ものや事の認知は知識やエピソードなどの記憶  
(知識) の想起なしには成立しない



ルビンの杯

〔文  
献〕

小谷津孝明 (2011). <こころ>で視る・知る・理解するー認知心理学入門ー 左右社